

口腔機能低下症について

楽しいちデイサービス

言語聴覚士 伊藤 栞

本日のセッション

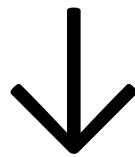
◇口腔機能低下症について

◇口腔機能低下症の診断基準

◇NST委員会主催の研修会のご案内

NEW !

口腔機能低下症



「人は口から老いる」

口腔機能低下症とは？



- ①疾患や傷害など様々な要因によって、口腔の機能が低下している。(例:硬い物が噛めない)
- ②口腔の要因に加えて、加齢によっても、口腔機能が低下しやすい。
- ③低栄養や廃用、薬剤の副作用等によっても発症する可能性がある。

様々な要因が重なりあっている複雑な疾患

フレイルの連鎖

QOL(口腔・全身)・生活機能

フレイル=虚弱

【第1段階】
社会性/心の
フレイル期

歯の喪失

歯周病・齲蝕

口腔リテラシー・低下
(口腔への関心度)

精神(意欲低下)
心理(うつ)

活動量低下

生活の広がり

口腔機能

心身機能

【第2段階】
栄養面の
フレイル期

オーラル・フレイル

滑舌低下

食べこぼし・

わずかのむせ

噛めない食品増加

食欲低下

食品多様性低下

【第3段階】
身体面の
フレイル期

咬合力低下

舌運動の力低下

食べる量低下

サルコ・ロコモ

低栄養

代謝量低下

【第4段階】
重度の
フレイル期

摂食嚥下障害
咀嚼機能不全

フレイル

要介護

運動・栄養障害

疾患(多病)・多剤

オーラルフレイル状態に陥ると・・・

むせる様になってきた・・・

最近言葉が聞き取りにくい・・・

硬い物を残す・・・

ご飯を食べこぼす事が多くなってきた



低栄養状態

食欲低下

身の回りにいませんか？



- ◇入れ歯を入れずに過ごしている
- ◇出かける時だけ装着する
- ◇話している最中にパカパカしている
- ◇入れ歯が汚れている...

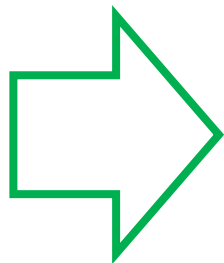
実は、オーラルフレイを発症する要因の1つ！

義歯が合わないと・・・？

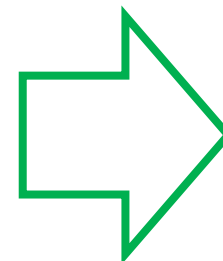
例)



・義歯を入れないで
ご飯を食べている。



・硬い物を避ける。
・体重が減少する。

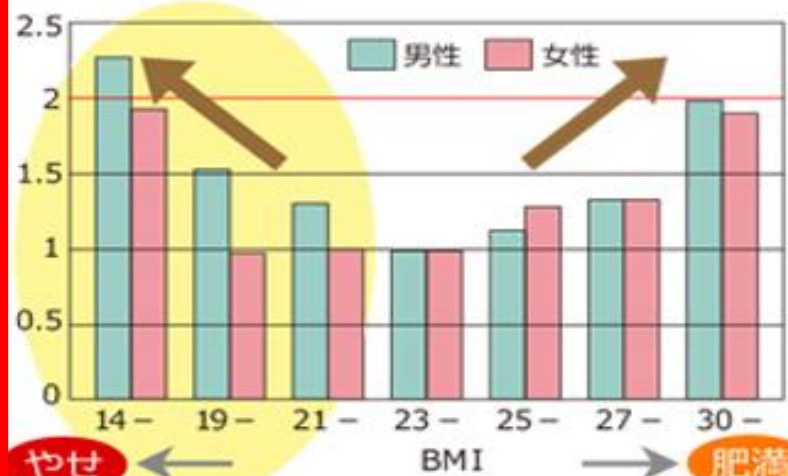


**低栄養
状態**

低栄養状態になると・・・

- ✓ 認知機能低下
- ✓ 気力がなくなる
- ✓ 免疫力や体力の低下
- ✓ 病気にかかりやすい
- ✓ 筋肉量や筋力の低下
- ✓ 骨量減少
- ✓ 骨折の危険増

BMI 値と死亡率との関係



肥満による死亡率より
やせによる死亡率の方が高い
(BMI23.0-24.9の死亡率を1とした場合)

中年期男女におけるBMIと死亡率との関係
独立行政法人国立がん研究センターに所属する
コホート研究HPより,
<http://epi.ncc.go.jp/jphc/>

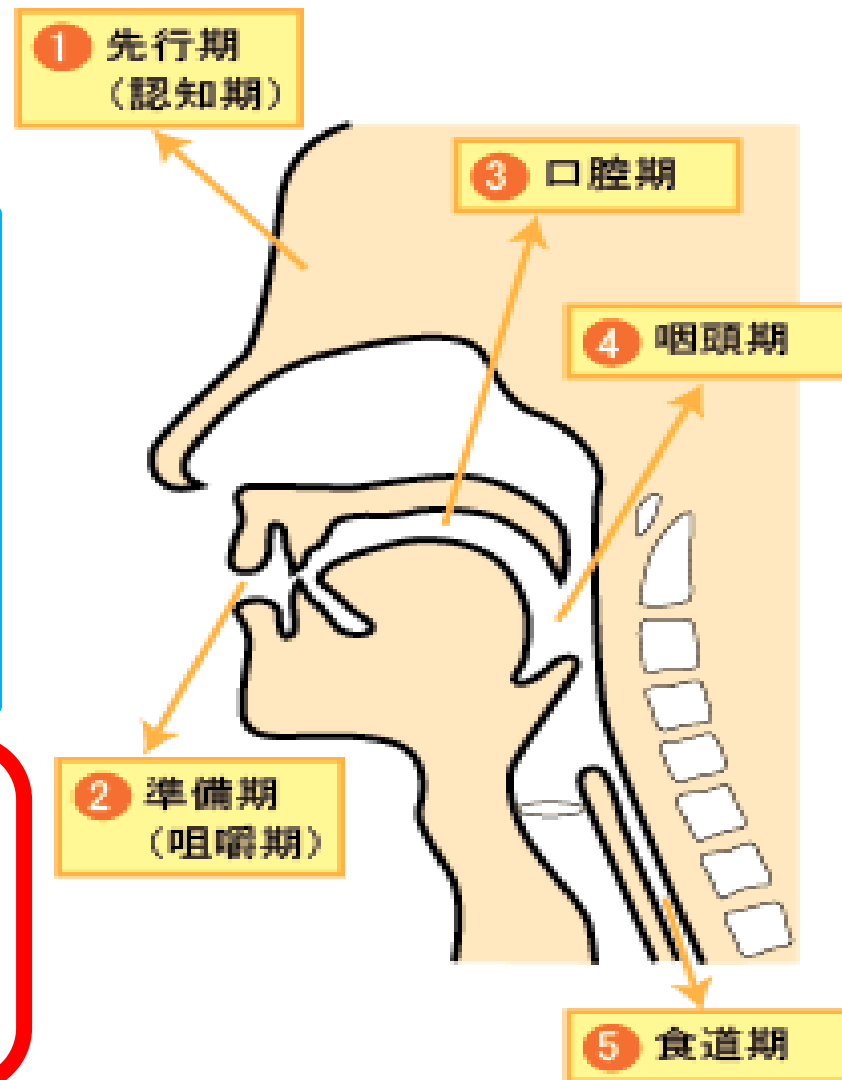


摂食嚥下機能との関連

● 摂食・嚥下の5期

① 先行期 (認知期)	何をどのように食べるかを判断する時期
② 準備期 (咀嚼期)	食べ物を咀嚼し食塊を形成する時期
③ 口腔期	食塊を口腔から咽頭(のど)に送り込む時期
④ 咽頭期	食塊を咽頭から食道へ送り込む時期
⑤ 食道期	食塊を食道から胃に送り込む時期

口腔機能低下症は、
摂食嚥下障害を誘因する。



小括

- ◇口腔機能低下症は、様々な要因が重なりあって発症する。
- ◇オーラルフレイルは、身体全体に影響を与える要因である。



口腔機能低下症の診断基準

- ◇ 口腔衛生状態不良
- ◇ 口腔乾燥
- ◇ 咬合力低下
- ◇ 舌口唇運動機能低下
- ◇ 低舌圧
- ◇ 咀嚼機能低下
- ◇ 嚥下機能低下

3項目以上
該当

口腔機能低下症



口腔機能低下症の診断基準

- ◇ 口腔乾燥
- ◇ 咬合力低下
- ◇ 低舌圧
- ◇ 咀嚼機能低下

- ◇ 舌口唇運動機能低下
- ◇ 口腔衛生状態不良
- ◇ 嚥下機能低下

機械による測定

視診や質問紙による評価

EAT-10

嚥下スクリーニングツール

(The 10-item Eating Assessment Tool)

◇**摂食嚥下機能に関する10個の質問に答えてもらう。**

◇**各質問の点数を合計し、3点以上の場合は、嚥下機能の低下が疑われ、医療機関を受診し、詳細な評価が必要となる。**

◇**職種を問わずに、評価を行う事が可能である。**

EAT-10(イート・テン) 嚥下スクリーニングツール

Nestlé
Nutrition Institute

氏名: 性別: 年齢: 日付: 年 月 日

目的

EAT-10は、嚥下の機能を測るためのものです。
気になる症状や治療についてはかかりつけ医にご相談ください。

A. 指示

各質問で、あてはまる点数を四角の中に記入してください。
問い:以下の問題について、あなたはどの程度経験されていますか?

質問1: 飲み込みの問題が原因で、体重が減少した

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

質問5: 飲み込むことが苦痛だ

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

質問2: 飲み込みの問題が外出に行くための障害になっている

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

質問7: 食べる喜びが飲み込みによって影響を受けている

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

質問3: 液体を飲み込む時に、十分な努力が必要だ

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

質問8: 飲み込む時に食べ物などがどに引っかかる

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

質問4: 固形物を飲み込む時に、十分な努力が必要だ

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

質問9: 食べる時に喉が出る

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

質問5: 固形物を飲み込む時に、十分な努力が必要だ

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

質問10: 飲み込むことはストレスが多い

0=問題なし
1
2
3
4=ひどく問題

B. 採点

上記の点数を足して、合計点数を四角の中に記入してください。

合計点数(最大40点)

C. 次にすべきこと

EAT-10の合計点数が3点以上の場合、嚥下の効率や安全性について専門医に相談することをお勧めします。

症例を通して

◇主訴:「**食べた後、疲れちゃう**」

◇摂食嚥下機能評価

- ・**咀嚼時間の延長**を確認

→**咀嚼機能が低下し、食事による疲労の影響**が強い
のでは？



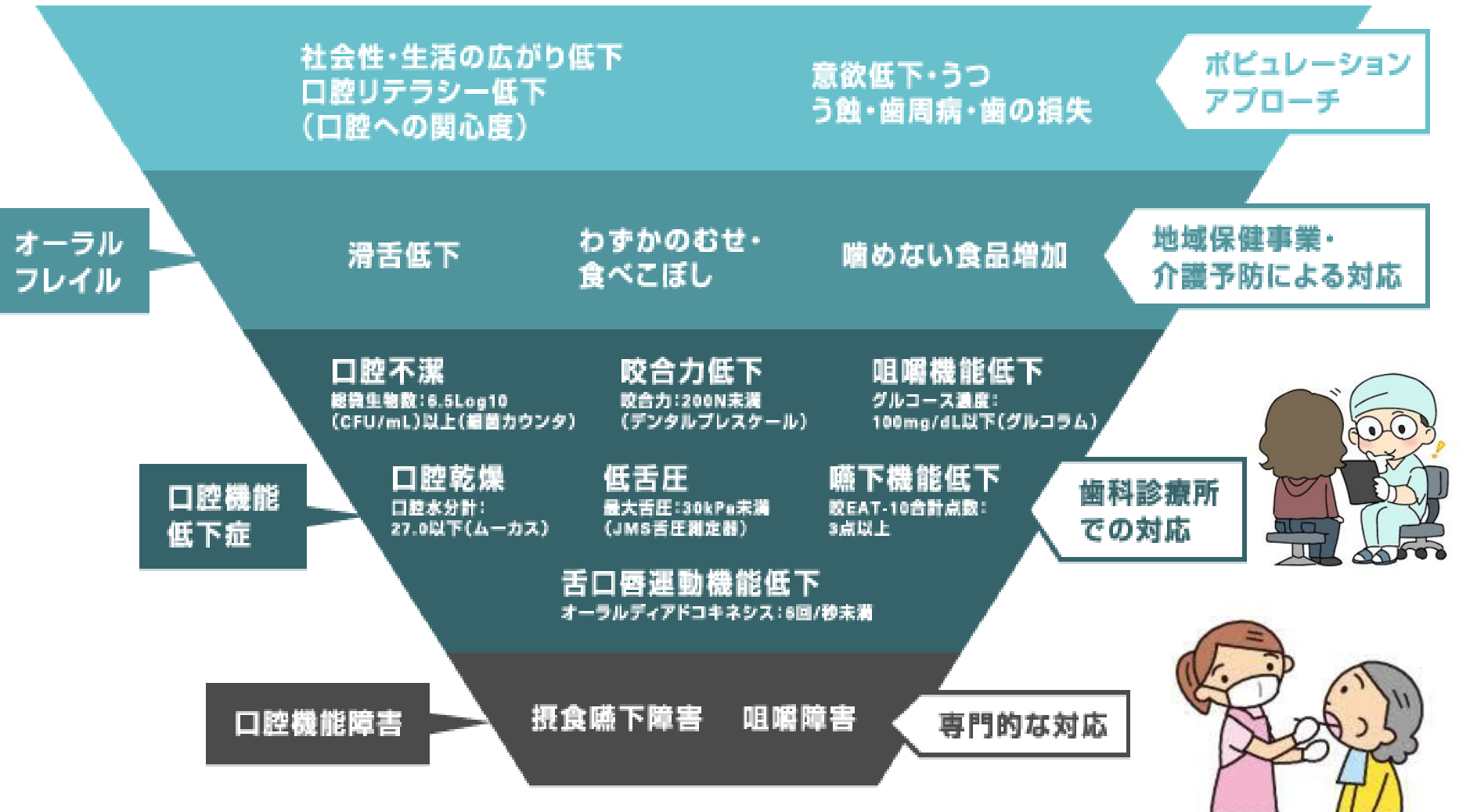
◇食形態の変更

- ・咀嚼回数の軽減→**極刻み食**

- ・食事の姿勢調整→**骨盤の後傾を軽減**



多職種での対応



老化による口腔機能低下

総括

- ◇口腔機能低下症は、様々な疾患が重なりあって発症する。
- ◇口腔機能低下症は、利用者の変化にいち早く気づき、専門職種へ情報提供することが必要である。
- ◇口腔機能低下症を予防するためには、対象となりうる利用者に啓発活動をする必要がある。



最後に・・・



◇今年度もNST委員会による
研修会を開催いたします！

◇今年度のテーマは「薬剤」とし、1年で4回研修会を予定しております。

◇参加をご希望される方は、所属施設のNST委員までお声かけください。